



上越市立稲田小学校

稲田小だより

令和 6 年度 No. 6

令和 6 年 10 月

◎学力テストの結果について

校長 遠藤 和英

4月に全国の6年生を対象に行われた国語と算数の全国学力テストの結果が届きました。残念ながら稲田小学校の結果は、国語・算数ともに県の平均を下回りました。この学力テストで図ることができるのは学力の一部でしかありません。しかし、県平均を下回っているという結果を真摯に受け止め、結果を分析し、今後の指導に生かしていきます。

稲田小の傾向として、漢字や計算などの基礎的な内容についてはよくできています。日ごろから職員が基礎基本を確実に身に付くようにと力を注いできたことが正答率として表れており、職員と一緒に喜んでいます。反面、問題の条件に応じて基礎的な事項を活用しなければならない問題については、正答率が低い傾向が見られました。誤答の傾向から、授業の中で自分の考えだけでなく友達の考えにも触れながら考えを深めていくこと、問題を解くために必要な条件を自分で考えながら解くことなどをより一層大切にしていかなければならないということが分かりました。

また、テストでは、子どもたちが自分の生活などについて様々な質問に答えた結果についてもデータで示されています。稲田小の子どもたちの傾向が分かるのですが、その中でも特に顕著な傾向を示したのが以下の項目でした。

- ① ひとの役に立ちたいと考えている子どもが多い、
- ② 困ったことがあると職員に相談する子どもが多い。
- ③ ゲームやタブレットなど、メディアを使用する時間が長い。
- ④ 家庭学習の時間が著しく短い。

①は「ひとの役に立つ子」という学校目標について考える機会が多いからだと考えます。また②は、子どもと職員の間関係のよさが表れていると素直に喜んでいます。③④については、今後も子どもたちに考えさせていかななくてはならない問題です。特に④については、子どもたち自身も自分が学びたいものを見つけ出すことができないでいることが表れていると考えます。また、これらの事項はご家庭の協力が必要です。ぜひ、一緒に考えてみてください。

この他にも、子どもたちの傾向がいろいろと分かります。学力の傾向と同様に、これらの傾向も今後の指導に役立てていきます。

◎いいことばかりではありません

学校では、今、今週末の「学習発表会」に向け、懸命に練習している様子が見られます。子どもたちが、「できるようになろう 分かるようになろう」と努力する姿には、見ている私たちも感動させられます。しかし、学校は子どもたちが集団で生活する場ですから、いろいろなことがあります。「〇〇を壊しました」などと子どもたちが自分で言いに来る場合はよいのですが、誰がしたか分からない嫌なことがある場合もあります。

例えばこんなことがありました。

- ・体育館のホワイトボードに「死ね」と書かれていた。
- ・3階トイレに何度もトイレトペーパーが丸ごと投げ込まれていた。
- ・子どもの家でのごみを持ち帰らない等、使用マナーが悪い。

まずは、誰がやったかを特定して指導するために、何か知っている人は教えてほしいなどと子どもたちに呼びかけ、該当者を指導します。（残念ですが、しっかり特定できることは多くはありません。）同時に、多くの子どもたちに社会性を伸ばす機会として、その学年や全校の子どもたちに事実を知らせ、何かいけないのか、相手がある場合は相手の気持ちを想像させ、どうしていかなければならないかを考えさせる機会を設定しています。

また、友達と適切な人間関係を築くことができずに、同じ子ども同士で何回もけんかなどのトラブルが発生するときもあります。これについても、相手の気持ちを想像させ、何がいけないのか考えさせ、どうしていかなければならないのかを指導しています。

これらのことは、一度指導したからといって、すぐになくなるわけではありません。時間が経つと、あるいは指導した次の日に繰り返される場合もあります。そんなときは、教員も人間ですから、正直、無力感に苛まれる場合もあります。でも、あきらめることは許されません。学校が基本的に楽しく安全な場であることは、子どもたちにとって必要不可欠です。悲しんでいる子が出ないよう、また、子どもたちの社会性の一層の伸長を信じて、何度も何度も、繰り返し繰り返し指導を行っています。併せて、子どもたちの様子を明確に把握するために、生活アンケートをもとに教育相談も行っています。今後も、悲しんでいる子どもを見逃さないように努めていきますので、私たちには知り得ないような情報がありましたら、どうぞ教えてください。

社会性を伸ばすことも、学校だけではできません。保護者の皆様には、学校は集団生活の場であるから、楽しいことばかりではなく嫌なことがある場合もあるということを知っててください。また、お子さんの社会性を伸ばすためにも、このようなことがあった時、どのようにしていったらよいのかをご家庭でも話題にしてみてください。どの子も「被害者」にも「加害者」にも成り得ますから。

◎ありがとうございます

日ごろから学校の様々な教育活動について、保護者の皆様や地域の方々から子どもたちのためにご協力いただいています。その中からいくつか紹介いたします。

まずは、本をいただいたことです。地域にお住いの日本画家であられる「川崎日香理様」より「活火山 やけやま」という絵本をいただきました。上越地域にある焼山について、その歴史や暮らしへの影響等が書かれている本です。川崎様が絵を担当され、鮮やかな色彩の絵本になっています。子どもたちへのサインを添えていただきました。次に、鴨島1丁目の老人会「いきいきクラブ様」より、雑巾をたくさんいただきました。手縫いで、子どもたちの手によくなじむ雑巾です。校内の清掃等に役立たせていただきます。修学旅行では、稲田小の子どもたちが国会議事堂に来ることを知った省庁にお勤めの先輩が、わざわざ訪ねておいでになり、子どもたちに励ましの言葉をかけてくださいました。

この他にも、総合の授業や今週末の学習発表会でボランティアをしたり、玄関前に危険防止のラインを引いたりしていただきました。また、先日の休日には、稲田小の子どもたちだけが対象というわけではありませんが、たくさんのお店や花火で子どもたちを楽しませる催しを開いていただきました。

これらはきっと、子どもたちが地域に誇りをもつきっかけの一つになるはずです。心より感謝いたします。ありがとうございました。

稲田小学校ABCD

A:あたり前のことを

B:ほかになしで

C:ちゃんとできる人が

D:できる人(すごい人)